

浦和市東部遺跡群発掘調査報告書第1集

# 馬場(小室山)遺跡

BAMBA-OMUROYAMA-SITE

1 9 8 2

浦 和 市 教 育 委 員 会

浦 和 市 遺 跡 調 査 会

浦和市東部遺跡群発掘調査報告書第1集

# 馬場(小室山)遺跡

BAMBA-OMUROYAMA-SITE

1 9 8 2

浦 和 市 教 育 委 員 会

浦 和 市 遺 跡 調 査 会

## は じ め に

ここに、浦和市東部遺跡群発掘調査報告書第1集として、馬場（小室山）遺跡の調査報告書を刊行するはこびとなりました。

浦和市の東部は、各時代の遺跡の非常に多いところであり、最近まで、ごく良好な状態で保存されてきたところではありますが、土地区画整理や宅地造成などで現物保存がなかなかむずかしくなっております。こういった開発事業に対しては、開発主体者から浦和市遺跡調査会が委託を受け、記録保存のための学術調査を実施しておりますが、個人住宅などについては、必ずしもじゅうぶんな対応をしてこられなかったのが実情であります。そこで、浦和市としては、昭和56年度から、国庫及び県費の補助金を受けて、これら原因者負担の困難な場合に際しても対処できるようにいたしました。この発掘調査は、その最初のものであります。面積はごくわずかではありますが、その成果は、きわめて多大でした。とりわけ土偶装飾付き土器の出土は、各方面から注目を浴びているところでもあります。

本書は、調査の成果を細大渡らさず報告したつもりですが、種々の制約もあり、あるいは、意を尽せなかったところがあるかと思えます。ご叱正、ご教示をいただければ幸いです。

最後になりましたが、土地所有者をはじめ、この調査の円滑な進展にご協力を賜わった各位に心から感謝の意を表し、あわせて、本書が広く活用されることを願って、巻頭のごあいさつといたします。

昭和57年3月

浦和市教育委員会  
教育長 小松崎 兵 馬

---

## 例 言

- 1 本書は、浦和市大字三室字東宿2015番地内において実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、昭和56年5月25日から6月30日まで、浦和市教育委員会が主体となり、青木義脩、高山清司、小倉均が担当者となって実施した。
- 3 この調査及び報告書作成業務は、国庫及び県費の補助金を受けて実施した。
- 4 本書の執筆者はそのつど文末に記したが、全体の責任は担当者が負うものである。
- 5 本遺跡の名称については、馬場（小室山）遺跡としているが、遺跡が馬場と東宿という2つの小字にかかっており小室山は東宿のうちの通称である。どちらの名をとっても不都合が生じるので、当分このような形でいくことにしたい。なお、今回の調査は、小室山地内である。

---

## 発掘調査及び整理参加者

青木義脩、高山清司、岩井重雄、小倉均、中村誠二、大塚和男、中里吉次郎、谷川淳一、島村圭一、黒坂禎二、菅原昭子、梓秀雄、関根治子、木村俊夫、中島とし子、猪狩邑子、武笠恵美子、梅原秀人、近江かおる、小口正代、渋谷和子、福田美子、泉敬子、壽島正明、領塚正浩、今成進一、清水健治、鈴木透、井上義之、塩原秀久、上村直久、今野真之、薄井仁

## 目 次

はじめに	浦和市教育委員会教育長 小松崎兵馬
例 言	4
発掘調査に至るまで	9
遺跡の立地環境	10
発掘調査の方法及び経過	11
層 序	14
遺 構	15
(1) 住居跡	16
(2) 土壙及び埋甕	17
出土遺物	19
(1) 住居跡出土遺物	19
(2) 埋甕関係	24
(3) 包含層出土の土器	24
(4) 土偶装飾付土器	55
(5) 包含層出土の石器	58
(6) 包含層出土の土製品	60
まとめと考察	61

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	9
第2図 発掘調査区域図	13
第3図 土層図	14
第4図 トレンチ配置図及び遺構全測図	15
第5図 第1・2号住居跡実測図	15
第6図 第3号住居跡実測図及び土器出土状況図	16

第7図	土壌および第1号住居跡炉実測図	18
第8図	第1号住居跡出土土器拓影図	20
第9図	第2号住居跡出土土器拓影図	21
第10図	第3号住居跡出土土器拓影図	22
第11図	第3号住居跡出土土器実測図	23
第12図	包含層出土土器拓影図(1)	25
第13図	包含層出土土器拓影図(2)	26
第14図	包含層出土土器拓影図(3)	27
第15図	包含層出土土器拓影図(4)	29
第16図	包含層出土土器拓影図(5)	30
第17図	包含層出土土器拓影図(6)	31
第18図	包含層出土土器拓影図(7)	32
第19図	包含層出土土器拓影図(8)	34
第20図	包含層出土土器拓影図(9)	35
第21図	包含層出土土器拓影図(10)	36
第22図	包含層出土土器拓影図(11)	37
第23図	包含層出土土器拓影図(12)	38
第24図	包含層出土土器拓影図(13)	39
第25図	包含層出土土器拓影図(14)	40
第26図	包含層出土土器拓影図(15)	43
第27図	包含層出土土器拓影図(16)	44
第28図	包含層出土土器拓影図(17)	45
第29図	包含層出土土器拓影図(18)	46
第30図	包含層出土土器拓影図(19)	47
第31図	包含層出土土器拓影図(20)	48
第32図	包含層出土土器拓影図(21)	49
第33図	包含層出土土器拓影図(22)	50
第34図	包含層出土土器拓影図(23)	51

第35図	埋甕及び包含層出土土器実測図(1).....	52
第36図	包含層出土土器実測図(2).....	53
第37図	包含層出土土器実測図(3).....	54
第38図	土偶装飾付土器出土状況図.....	56
第39図	土偶装飾付土器実測図.....	56
第40図	出土土製品拓影図.....	59

## 図 版 目 次

図版 1	(1) 遺跡遠景 (北より)	(2) 遺跡遠景 (西より)
図版 2	(1) 遺跡近景 (南より)	(2) 調査区近景 (南より)
図版 3	(1) 発掘調査風景(1)	(2) 発掘調査風景(2)
図版 4	(1) 基本土層 (西側壁)	(2) 第1・2号住居跡 (北より)
図版 5	(2) 第1・2号住居跡 (南より)	(2) 第2号住居跡土層
図版 6	(1) 第3号住居跡及び第1・2号土壙	(2) 第3号住居跡南北土層
図版 7	(1) 第3号住居跡土器出土状況(1)	(2) 第3号住居跡土器出土状況(2)
図版 8	(1) 第2号土壙	(2) 第3号土壙
図版 9	(1) 埋 甕	(2) 土偶装飾付土器出土状況(1)
図版10	(1) 土偶装飾付土器出土状況(2)	(2) 土偶装飾付土器出土状況(3)
図版11	(1) 包含層土器出土状況(1)	(2) 包含層土器出土状況(2)
図版12	(1) 包含層土器出土状況(3)	(2) 包含層土器出土状況(4)
図版13	(1) 包含層土器出土状況(5)	(2) 包含層土器出土状況(6)
図版14	(1) 包含層土製品 (耳飾) 出土状況(1)	(2) 包含層土製品(耳飾)出土状況(2)
図版15	(1) 包含層土製品 (土錘) 出土状況(3)	(2) 包含層土製品(土錘)出土状況(4)
図版16	(1) 包含層土製品 (土偶) 出土状況(5)	(2) 包含層土製品(土偶)出土状況(6)
図版17	(1) 包含層石器出土状況(1)	(2) 包含層石器出土状況(2)
図版18	(1) 包含層石器出土状況(3)	(2) 包含層石器出土状況(4)
図版19	(1) 包含層石器出土状況(5)	(2) 包含層石器出土状況(6)

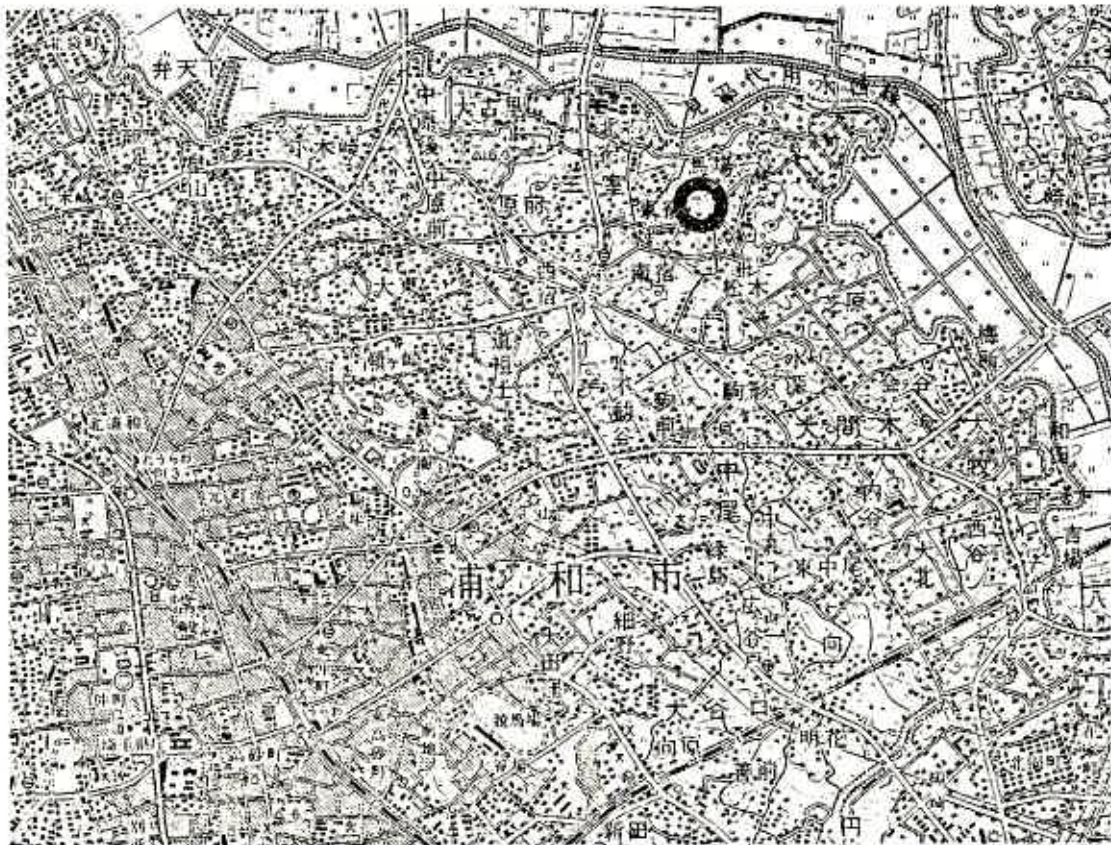
- |      |                     |                    |
|------|---------------------|--------------------|
| 图版20 | (1) 包含層石器出土狀況(7)    | (2) 包含層石器出土狀況(8)   |
| 图版21 | (1) 包含層石器出土狀況(9)    | (2) 包含層石器出土狀況(10)  |
| 图版22 | (1) 包含層石器出土狀況(11)   | (2) 包含層石器出土狀況(12)  |
| 图版23 | (1) 包含層石器出土狀況(13)   | (2) 包含層石器出土狀況(14)  |
| 图版24 | (1) 包含層石器出土狀況(15)   | (2) 包含層石器出土狀況(16)  |
| 图版25 | (1) 土偶裝飾付土器(1)      | (2) 土偶裝飾付土器(2)     |
|      | (3) 土偶裝飾付土器(3)      |                    |
| 图版26 | (1) 出土土製品(耳飾、土版、土偶) | (2) 出土石器(1)(石鏃、石棒) |
| 图版27 | (1) 出土石器(2)(石斧)     | (2) 出土石器(3)(石斧)    |
| 图版28 | (1) 出土石器(4)(磨石、敲石)  | (2) 出土石器(5)(磨石)    |
| 图版29 | (1) 出土石器(6)(石皿)     | (2) 出土石器(7)(石皿)    |
| 图版30 | (1) 出土石器(8)(石棒)     | (2) 出土骨片           |



## 発掘調査に至るまで

昭和56年5月15日、浦和市三室在住の武笠嘉一氏から、庭の土入れのために同氏所有の隣接する山林（三室<sup>2015</sup>2018番地内）の土を採取したいということで、文化財保護法第57条の2、第1項の規定による発掘届が提出された。市教育委員会では、この地が、馬場遺跡の一部にあたるため、5月16日付け、浦教委社発第229号をもって、発掘調査届を提出した。これに対し、6月3日付けをもって、県教育長から武笠氏に、周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について、という指示通知があり、8月18日付けをもって、文化庁文化財保護部記念物課長から、発掘通知書が受理された旨、県教育長に通知があり、9月2日、教文第3-45号をもって、県教育長から浦和市教育委員会教育長あて、そのことが通知された。、

（青木）



第1図 遺跡位置図（1/5万大宮）

## 遺跡の立地環境

馬場（小室山）遺跡は、浦和市の東の郊外、大字三室字東宿から字馬場にかけて存する縄文時代後半の大遺跡である。位置的には、京浜東北線北浦和駅の東北東約4kmのところにある。地形的に見ると、見沼の谷から南に袋状に入る溺れ谷に面する台地の北側に立地する。遺跡の標高は約15m、溺れ谷は約5mで、比高10mほどである。

遺跡は、東西約300m、南北約200mあり、宅地、山林、畑地などになっているが、今回の調査地点は、山林の中で、この付近が最も保存状態が良好である。

付近の遺跡としては、谷を隔てて北側の台地上に馬場北遺跡（旧石器時代の包含層、弥生時代後期の環濠集落跡、昭和56年発掘）、さらに西に行き北宿遺跡（縄文時代早～後期・弥生時代後期、古墳時代前・後期の集落跡、昭和47、56年発掘）などがある。

なお、馬場（小室山）遺跡の調査歴は下記のとおりである。

昭和44年7月 浦和市教育委員会 報告書「馬場遺跡発掘調査概報」浦和市教育委員会 昭和44年12月

昭和45年3月 同上 報告書「馬場遺跡第二次調査報告」同上 昭和46年2月、昭和57年2月～3月 浦和市遺跡調査会 台地下の発掘調査 報告書未刊 （青木）

## 発掘調査の方法及び経過

発掘調査を実施したのは4 m×12 m程の狭い範囲であり、調査区域はほぼ長方形を示していた。調査区は2 mごとの小区画に分け、西側をA、東側をBとし、北から1～6の番号を付した。

5月25日(月)はれ 器材運搬を行ない、調査区設定後、調査に入った。A-1、2の表土、Ⅱ層の調査を実施した。

5月26日(火)はれ A-1・2のⅠ～Ⅱ層の調査を行なった。A-2から土偶装飾付土器等の一括土器の出土がみられた。

5月27日(水)はれ A-1、2のⅠ～Ⅱ層、B-1、2の調査を行なった。B-1、2では攪乱をうけ 状態は不良であった。

5月28日(木)くもり時々雨 A-3～5の表土～Ⅱ層の調査を行なった。

5月29日(金)はれ A-4・5のⅠ～Ⅱ層、B-2、3の調査を行なった。B列は攪乱がみられた。またA-4からは骨片が多く認められた。

5月30日(土)はれ A-4、5のⅡ層A-6の表土、Ⅰ層、B-2、3の調査を行なった。

6月1日(月)雨のちくもり、午前中は雨のため遺物水洗を行ない、午後からA-6のⅠ～Ⅱ層の調査を行なった。

6月2日(火)はれ A-6のⅡ～Ⅳ層A-4・5のⅡ層の調査を行なった。

6月3日(水)はれ A-3～5のⅡ～Ⅳ層調査を行なった。

6月4日(木)はれ時々くもり A-1～4のⅡ層、Ⅲ層の調査を行なった。

6月5日(金)はれ A-1～4のⅡ～Ⅲ層の調査を行なった。

6月6日(土)はれ A-1のⅢ層、B-4の調査を行なった。

6月8日(月)はれ A-1のⅢ層の調査を行なった。

6月9日(火)くもり A-1およびA-4付近で遺構が確認され、それぞれ第1号住居跡、第2号住居跡とした。B-5のⅠ層の調査を行ない、安行の粗製土器が一括して出土した。

6月10日(水)くもり 第2号住居跡および、B-2～5の攪乱部分の調査を行な

った。

6月11日(木) 曇り 第2号住居跡および、B-4・5の調査を行なった。

6月12日(金) 曇り 第1号、第2号住居跡およびB-3～5の調査を行なった。

6月13日(土) 曇りのち雨 第2号住居跡およびB-3～5の調査を行なった。また午後から雨のため、午前中で調査を中止した。

6月15日(月) 曇り 第2号住居跡および、B-5の調査を行なった。

6月16日(火) はれのち曇り 第1・2号土壙および、B-3～6の調査を行なった。

6月17日(木) 曇りのち雨 第2号住居跡の調査を行なった。雨のため午前で調査を中止し、午後図面の整理等を行なった。B-6付近で発見された住居跡を第3号とした。

6月19日(金) 曇り 第1～3号住居跡の調査を行なった。第3号住居跡の埋甕の写真撮影を行なった。

6月20日(土) 曇り 第1～3号住居跡の調査を行なった。第3号は埋甕の出土状況の実測を行なった。

6月22日(月) 曇り 第1～3号住居跡の調査を行なった。第1号、2号では床面の調査を、第3号では土層の実測を行なった。

6月23日(火) はれ 第1～3号住居跡の調査を行なった。第1号、2号では、昨日発見したピットの調査を、第3号では床面の調査を行なった。

6月24日(水) はれ 第1～3号住居跡の調査を行なった。第1号、第2号では、土層の実測後、写真撮影を行ない、第3号ではピットの調査を行なった。

6月25日(木) 曇り 第1～3号住居跡の調査を行なった。第1号、2号では平板実測を、第3号では床面の精査を行なった。

6月26日(金) 曇り 第1～3号住居跡の調査を行なった。第1、2号では土層の実測を、第3号では平板実測を行なった。またB-1～3の調査を行なったが攪乱のため状態は不良であった。

6月27日(土) 雨 雨のため作業を中止し、図面整理等を行なった。

6月29日(月) 曇り 調査区西側土層、第3号土層の調査を行なった。あわせて全体測量を行なった。

6月30日(火) はれ 第3号土層の写真撮影、平板測量を行ない、B-1~3の調査を行なった。本日ですべて調査を終了した。 (小倉)



第2図 発掘調査区域図(1/5000)

## 層 序

遺構確認面までは、全体に約60~80cmの堆積で、基本的には5層（第3図）に分けられた。図示したものは、調査区の西側の断面である。

**第1層** 縄文時代晩期の安行Ⅲb式以降の土器が多く出土しているが、上部が削られているため、層の厚さは、正確には測定できない。現存部5~10cmである。

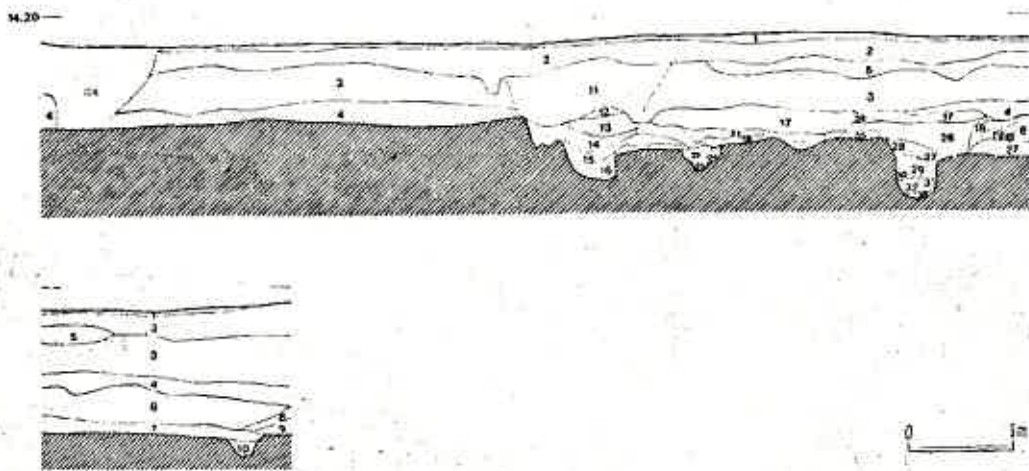
**第2層** 主に安行Ⅰ~Ⅲa式までの土器が多く含まれている。10~30cmの堆積である。

**第3層** この層は後期堀之内式、加曾利B式土器を多く包含しているが、混在した状態で出土しており、明確に分離することはできなかった。20~40cmの堆積である。本調査区の中で最も遺物の多い時期である。

**第4層** 中期勝坂式、加曾利E式土器を多く包含しているが、特に加曾利E式前半のものが多い。10~30cmの堆積である。

**第5層** 調査区南側に第2層と3層との間に堆積していた層である。主に加曾利B式の遺物を多く包含している。この層は加曾利B式の土器を、堀之内式土器などと比べ多く包含していたため何らかの遺構かとも思われたが明確にプランを確認することができなかった。

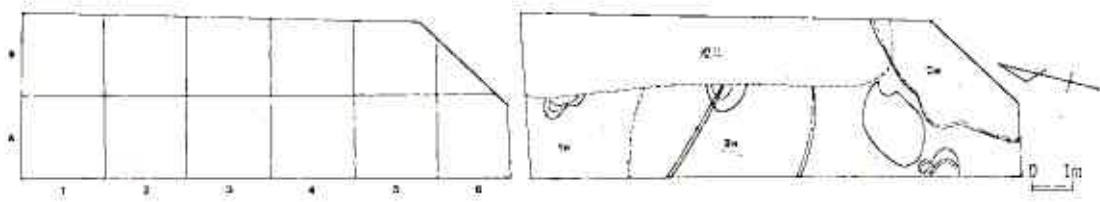
（中村）



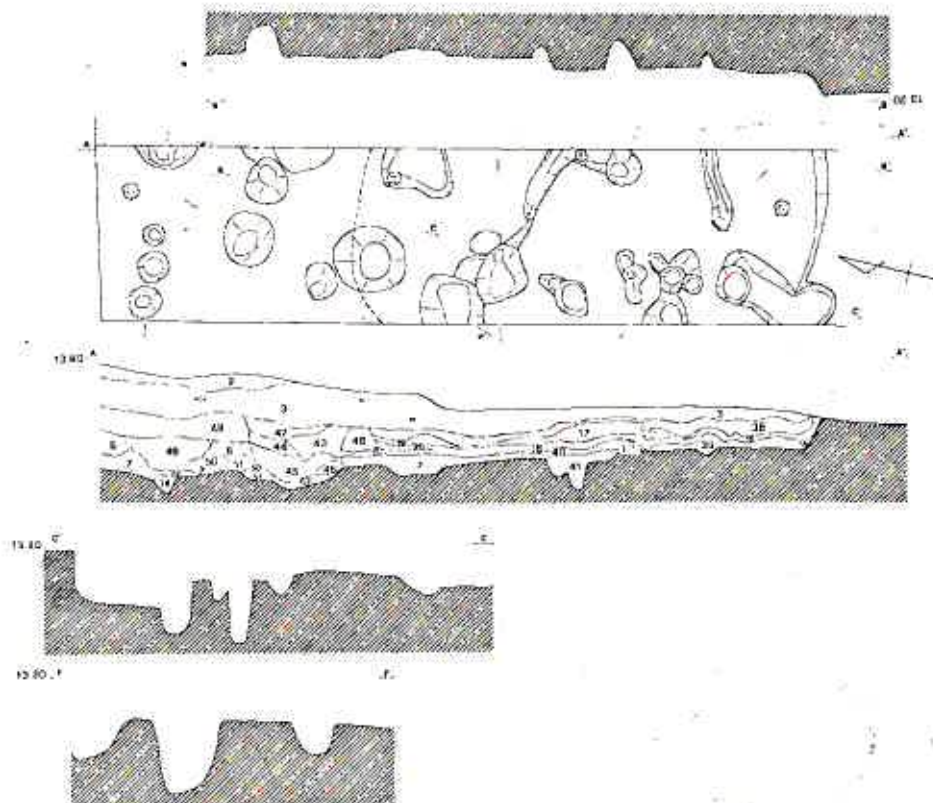
第3図 土層図（説明は巻末参照）

# 遺 構

この区域から発見された遺構は、3基の竪穴住居跡と3基の土壇、それに遺構と呼べるか否かは問題があるが埋甕などである。



第4図 トレンチ配置図及び遺構全測図

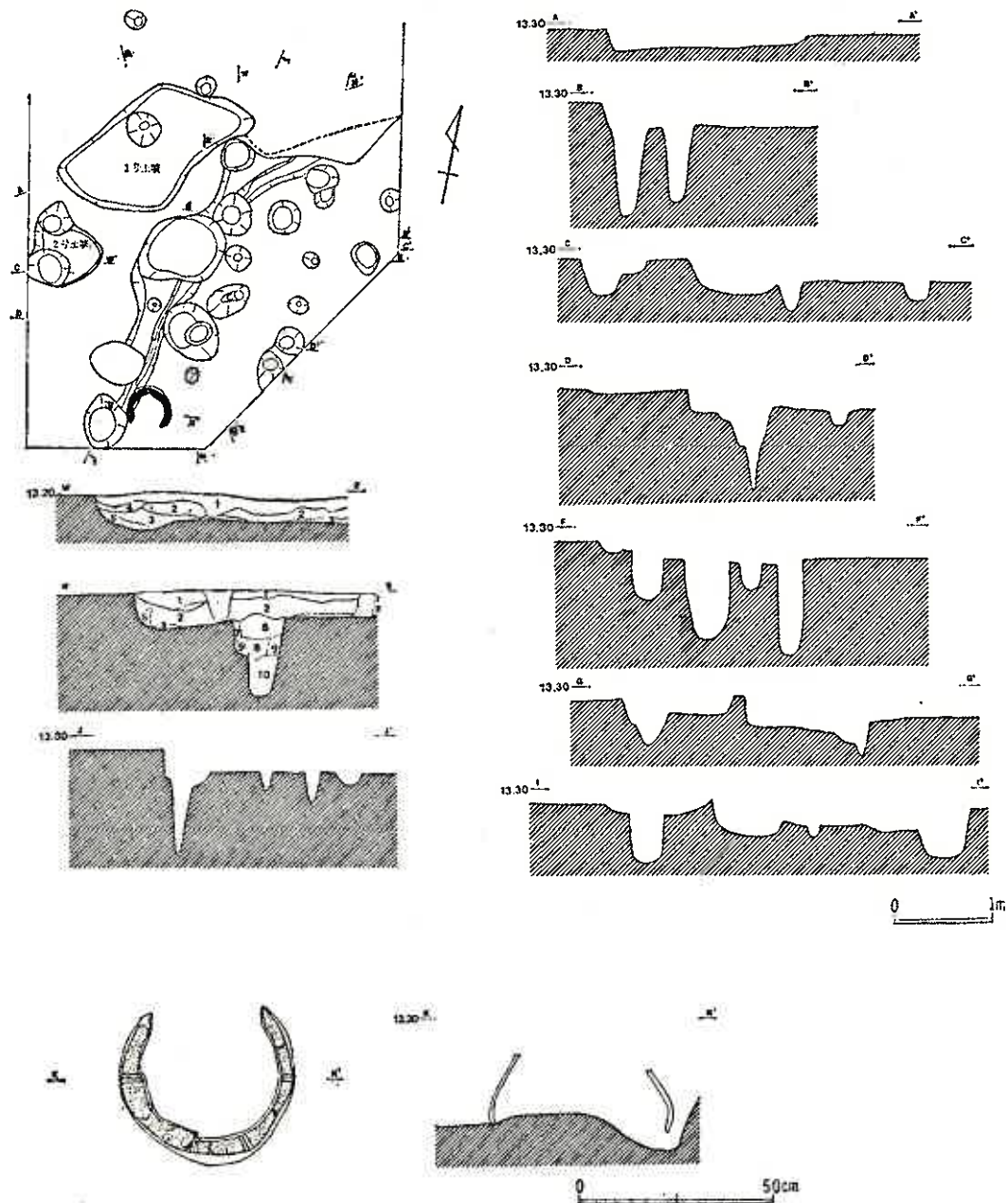


第5図 第1・2号住居跡実測図(80分の1)(土層説明は巻末参照)

(1) 住居跡

第1号住居跡 (第5図)

本住居跡は第2号住居跡と重複しており、プランは調査面積が狭いため判然としな  
いが炉を中心とするならば直径約5.3 mの円形を呈すると思われる。壁は第2号住居  
跡により床面のすぐ上まで削られているが壁溝が廻ると思われる。床は炉の付近では



第6図 第3号住居跡実測図及び土器出土状況図 (土層説明は巻末参照)



良く踏み固められており、炉から離れた所は比較的軟弱であった。炉は地床炉で約20cm掘りくぼめられており、良く焼けて焼土の堆積は10cm程あった。ピットは数本が検出されたが、どのような配列になるのかは知り得ない。覆土は約40cmの厚さで堆積しており、中から勝坂式、加曾利E I式土器が多く発見された。出土遺物から見て本住居跡は加曾利E I期であると思われる。

### 第2号住居跡（第5図）

本住居跡は一部第1号住居跡を埋めて作られているもので、プランは直径約4.5mの円形を呈すると思われる。壁の掘り込みは南側で約30cmでやや急に立ち上がる。床は中央付近がよく固められているが、ほとんどが軟弱であった。ピットは10数本検出されたが第1号住居跡と同様に柱穴がどのような配列となるかは判然としない。炉は中央東側に第1号住居跡の壁を壊して作られている地床炉である。南寄りに一部壁溝状の溝が見られるが拡張が行なわれたかどうかは判然としない。遺物は縄文時代中期の土器などが多く出土しているがその中でも加曾利E IV式期のものが多い。これらの遺物からみて本住居跡は縄文時代中期加曾利E IV式期に属すると思われる。

### 第3号住居跡（第6図）

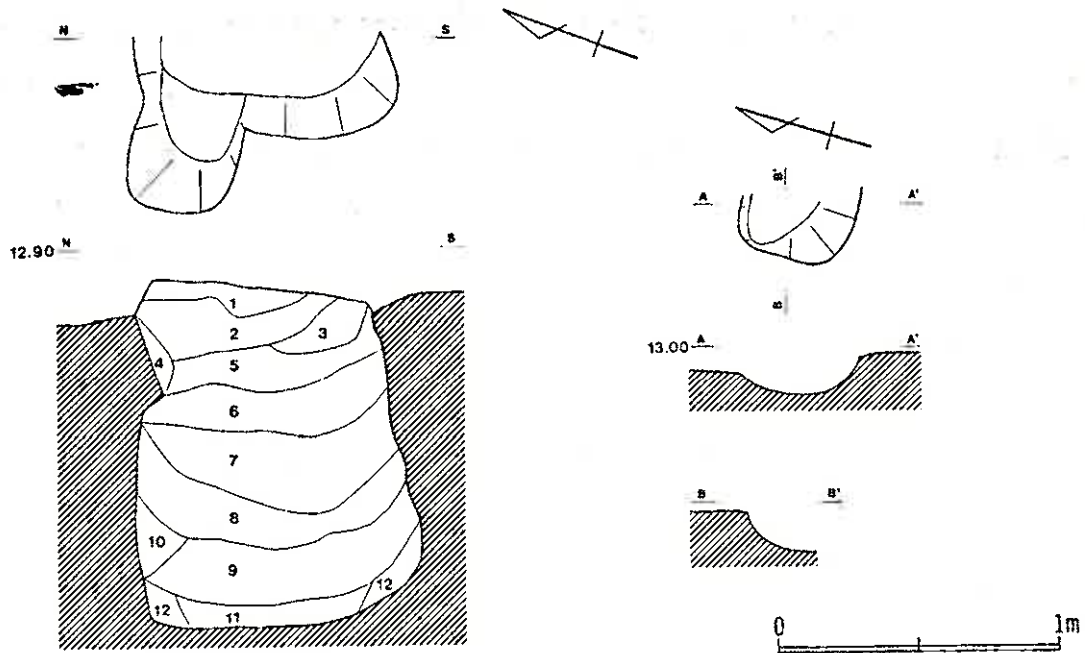
本住居跡は調査区南側から検出されたものである。完掘し得なかったが、プランはほぼ円形を呈するものと思われる。壁はゆるやかに立ち上がり壁に沿って壁溝が廻る。床は南側が良く踏み固められていた。北西壁付近は土壌により切られている。ピットは10数本検出され、主柱穴と思われる掘り込みの深いものも数本検出されたが、住居跡の調査面積が少ないためもあってか規則性は見出だせなかった。炉は検出し得なかったが調査区外にあると思われる。遺物は縄文時代中期の土器が多く出土したが、特に加曾利E I式の深鉢形土器が南側壁寄りから床面に密着した状態で出土しており本住居跡の時期もほぼこの時期と見てよいと思われる。 (中村)

#### (2) 土壌及び埋甕

本遺跡からは3基の土壌が検出され、発見された順に第1号から第3号とした。

#### 第1号土壌（第6図）

第3号住居跡北側で検出されたもので、長径220cm、短径130cm、深さ30cmを測る不整形の土壌で、北側には径45cmのピットがみられる。遺物は出土しなかった。



第7図 土壙および第1号住居跡炉実測図（土層説明は巻末参照）

### 第2号土壙（第6図）

本土壙は第3号住居跡西側で検出されたもので、長径90cm、短径80cm、深さ25cmを測る不整形の土壙で、西側に径45cm、35cm程のピットが2本みられた。遺物の出土はみられなかった。

### 第3号土壙（第7号）

第1号住居跡内に検出されたもので一部攪乱をうけていたため全掘できなかった。長径100cm、深さ120cm、底径110cmを測り、底面で広がる袋状を呈している。遺物の出土は土壙上面にみられた。

### 埋 甕

B-5付近で検出されたもので単独で出土している。中期の勝坂式土器3個体分が出土し、石棒と思われる大形の石器もみられた。土器を除去した後、遺構の検出を行なったが、径20~30cmの小ピットがあり、小破片の出土があり土器を埋置したものであろうか。

（小倉）